

## 【復刻版】

# 「子どもに語る水俣のはなし」

作 天谷 静雄 (栃木民医連会長・医師)



## 子どもに語る水俣のはなし

天谷 静雄 (医師)

町にはニオイがあると思いませんか？ 長年住み慣れててしまうとわからぬものです。よそから来た人に言われると「ああ、そうか」と思います。ちょうど人間のからだのニオイのようなものです。いつか行った八戸の港は、同じくが生ぐさい東のニオイがしますし、多賀城の町はかわいたようなコールタールのニオイがします。秋から冬にかけてのある日、駅前に立った頃には、この中にも独特のニオイがあるのがさがつけたわけです。それ以外のニオイでもコールタールのニオイでもなく、風がしりりはをはこんでいるような、ちょっとしんみりしたニオイです。



## 【 目 次 】

\*子どもに語る水俣のはなし ..... P. 1 ~ P.17

天谷 静雄 (栃木民医連会長・医師)

\*すべての水俣病被害者の救済を目指すたたかい ..... P.18 ~ P.19

※第10回共同組織活動交流集会全体会リレートークより

大石 利生 (水俣健康友の会・水俣病不知火患者会会长・  
ノーモア・ミナマタ国賠訴訟原告団長)

\*加害企業を免罪する「チッソ㈱分社化」に再び反対する緊急声明 .... P.20

水俣病互助会／チッソ水俣病患者連盟／水俣病被害者の会／  
水俣病不知火患者会／水俣病被害者互助会／水俣病患者連合／  
水俣被害者の会全国連絡会／水俣病患者の会／新潟水俣病被害者の会／  
新潟水俣病阿賀野患者会／水俣病・東海の会

# 教材になつた 「子どもに語る水俣のはなし」

天谷 静雄(栃木・宇都宮協立診療所所長)

## 一本の電話から

私が今から二二年前、水俣の医師支援へ行つた頃のことを思い出すきっかけになつたのは、先日あつた一本の電話からでした。

宮城県に住むKさんは妻の元同僚看護婦ですが、今度、小学生の娘が授業で「水俣病」の項を勉強するので、何か良い資料はないかとのこと。そこで昔、私が書いた「子どもに語る水俣のはなし」という題名のルポルタージュを送つてあげました。

その話ついでに、実は小五になる私の長女も「水俣病」を勉強する予定と聞いたので、お父さんは寝床で読んであげました。娘は感心した様子で聞いてくれ、私自身もあの頃出会つた人々や感動がよみがえつて胸いっぱいになりました。そして、もしや授業の参考になればと思い、娘の通うT小学校へと持たせてやつたのです。

## 「教科書よりよくわかつたよ」

するとどうでしよう。先生が社

会科の教材に利用してくれ、生徒全員にコピーを配つて一文一文読み上げさせ、感想文まで書かせたとのこと。同級生から「まつちゃん」(娘の愛称)のお父さんは立派だね。えらいんだね」とほめられた娘はニコニコ顔。先生からも「おかげで、生きた授業ができる」とお礼の色鉛筆を頂いてきました。それで、私は思ひがけない特別扱いに恐縮したり感激したりのひとときでした。

「一体、あの文章を読んで子どもたちはどんな感想を持ったのでしよう。娘にその点を聞いてみると、

まず「水俣病というのはとても恐ろしい病気だとわかった」「水俣病がどういうものが教科書で習つてはいたけれど、これを読んでそれ以上に詳しくわかつてよかつた」との答えでした。そこで私は下手な論文よりもこのようなルポルタージュ作品の持つ迫真の力というものを実感したわけです。

## 教壇に立つかわりに

実は、二二年前、これを書いたいきさつも、多分に子どもへの教育を意識してのものでした。

二ヶ月間の医師支援を終えて水俣から宮城県多賀城市へ帰つた私は、地元の小学校の子どもらが私に会つたがつていつの噂を耳にします。そしてある日、若い男の先生の訪問を受けるのです。

彼の言つことは、できれば教壇に立つて直接子どもたちにその話をしてもほしいけれど学校の反対にあつて困つているとのこと。

「それでは子どもたちのためにわかりやすいルポルタージュというものを書いてさしあげましょう」と約束し、私は一気にこの作品を書いたのです。

なるべく私の体をつうじて感じた水俣の自然と人を表現しよう、私が教壇に立つたらこういう話し方をするだろう、と精魂こめて書いたら、何と四〇〇字詰で四〇枚分もの長さになつてしまいまし

た。

そのついでに、ジャンルは違うが「民医連医療」誌に一方的に送り付けたら、編集部の御厚意で一〇九号(一九八一年八月)に異例の掲載という形になりました。

編集部はおもしろいと思ったのか、当時、親から子へこの話を読み聞かせ、全国から感想を寄せ合



## 子どもに語る水俣のはなし

——天合 明義

同じは「どうが水俣と聞かなかつたか?」と  
おもひなれしもつとつうじゆうひが  
よどからぬふとに思ひなれし「のあやうが」  
とおもひます。このうへ「風のせらうの二子」  
のようふらうのすへつかはれた人の事は  
おもひうづくらう。海の二子がうきし  
水俣の町をうけいれた日は「ヨーロッパの  
カーブ」です。歌わしむはがけての歌日  
歌に「立正日本」の歌にも歌の二子  
の歌のうきうき行ひの歌です。や  
山魚の二子で「ちゴルタール」  
の二子イワモ中く、風のかり  
おまほこ心の歌のようう、うち  
うじんせいのうたです。

「つきぢじいちゃん」の無念さを  
思ひ、このよだな水俣病患者の苦  
しみを救うためにも「私もお父さ  
んのような医者になりたい」と当  
時小学三年生とは思えないほど、  
立派な文章が書かれていました。  
あの頃の子どもたちも今は立派  
な成人になつてゐるのでしよう  
から解剖をうけることになつた  
載つたのです。それに死んで

から解剖をうけることになつた  
「つきぢじいちゃん」の無念さを  
思ひ、このよだな水俣病患者の苦  
しみを救うためにも「私もお父さ  
んのような医者になりたい」と当  
時小学三年生とは思えないほど、  
立派な文章が書かれていました。  
あの頃の子どもたちも今は立派  
な成人になつてゐるのでしよう  
から解剖をうけることになつた  
載つたのです。それに死んで

が、私は今ひとたび、この作品が  
よみがえつて子どもたちの心に灯  
をともしたこと、作者冥利に尽  
きると言うか、密かな誇りと感慨  
を覚えるものです。

### 誇りと願いを語り伝えて

この話にはいろんな人物が登場  
します。娘にとつてはやはり胎児  
性水俣病患者の描写が強烈だった  
ようで、「じつ子ちゃんやひふえ  
ちゃんにくらべたら私はすつと幸  
せ」「最後に死ななければならな  
かつたちづるちゃんが一番かわい  
はいられません。

そう」との感想をもらしてくれま  
した。その反響の一として、同  
年一〇月号には何と「いのしあ先  
生」、すなわち水俣協立病院院長  
の藤野先生の娘さんからの投書が  
載つたのです。それに死んで

が、私は今ひとたび、この作品が  
よみがえつて子どもたちの心に灯  
をともしたこと、作者冥利に尽  
ますが、あの当時提起された水俣  
病第三次訴訟は国の責任を問い合わせ  
解のテーブルに着かせるか否かの  
最終段階を迎えていました。マクロ  
には戦後第二の反動攻勢とも結び  
付いた行政のまき返しを許さず、  
人間回復を求めていく壮大な国民  
的たたかいの一環として、みんな  
で理解し支援したいものです。また、  
身近な地域の汚染や「地球環境」  
が大問題になつてゐるとき、  
水俣は水俣、どうぞぶいてばかり  
はいられません。

●「子どもに語る水俣のはなし」  
が掲載された本誌No.109の在庫が  
若干あります。ご希望の方は、巻  
末の「読者カード」に住所・氏名  
を明記の上、郵送ください。1部  
550円(送料別)です。売り切れ  
の場合はご容赦下さい。

編集部

実は、私がこの作品を書く下地  
になつたのは、水俣の美しい自然  
とそこで「ふるさと」をとりもど  
すたたかいを続けてゐる人々への  
感動と連帯の心であつたことが今  
思い起されます。そのような心  
をいつまでも忘れず、民医連の医  
療従事者としていのちを守る仕事  
への誇りと、子どもたちが心豊か  
で民主主義的な人間に育つてほしい  
との願いを、さまざまな形で語  
り伝えていきたいと思います。

こどもに語る水俣のはなし



## 子どもに語る水俣のはなし

——天谷 静雄 (医師)

町にはニオイがあると思いませんか？長年住みなれてしまうとわからないものですが、よそから来た人に言われると「ああ、そうか」と思います。ちょうど人間のからだのニオイのようなものです。いつか行った八戸の町は、町じゅうが生ぐさい魚のニオイがしますし、多賀城の町はかわいたようなコールタールのニオイがします。秋から冬にかけてのある日、駅前に立ったぼくは、この町にも独特のニオイがあるのをかぎつけたわけです。それは魚のニオイでもコールタールのニオイでもなく、風がしめりけをはこんでいるような、ちょっとしんみりしたニオイです。

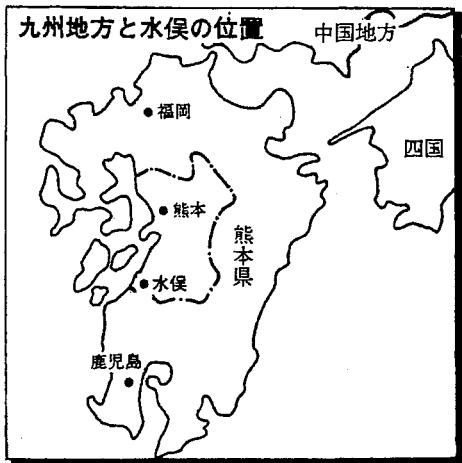
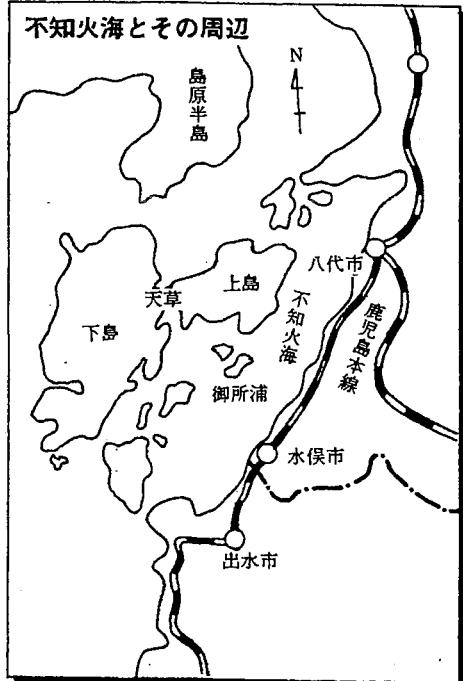


子どもに語る水俣のはなし (1)

## 不知火海と水俣病の由来

熊本から特急列車に乗って1時間、いかげんに列車に乗ることにあきてしまったぼくは、それでも八代（やつしろ）を過ぎるころから山と山との合い間に海が見えるようになると、窓ガラスにひたいをおしつけてけしきばかりながめっていました。向いの席にすわっているぼくの奥さんは、そんなぼくを「やれやれ、しょうがないな」という表情で見ています。外に見える海は不知火海（しらぬいかい）。遠くはなれて海の向こうにも大きな島がつづいています。青い布をひろげたようなしづかな海がひろびろとつづき、手前の入江にはさざ波ばかりが小舟をゆらしています。小さいころから海が好きだったぼくは、すぐにこの列車をとび下りて、あの小舟に乗ってゆらゆらゆれてみたいなと思っているのです。

山と山とにかくこまれ、ところどころ入江と



なったせまい土地に町がひらけ、そんな町が線路づたいにいくつもつづいています。ぼくが下りた水俣（みなまた）の町はそんな町のひとつです。

駅を出ると向い側の50メートル先はもうチツソ工場の正門です。正門の前を国道が走っており、車がたくさん行き来しています。正門の上には、事務所や工場の大きなたてもの、たてものとたてものをつなぐパイプライン、エントツなどがたくさんそびえています。

地図をひろげると、この工場のしき地が町の半分くらいを占めている大きなものであることがわかります。そのほか社員の住宅や会社のしせつも町のところどころにちらばっています。国道も駅も、そして町さえもチツソ工場のためにあるようなものです。

水俣市は、熊本県のはずれにある、人口約37,000人の小さな町です。不知火海での漁業のほかにめだった産業が無かった、このへき地が栄えるようになったのは、今から70年くらい前の明治時代に、ここにチツソの工場ができたからです。工場ではたらく人、その人たちのためにもの売る店などが集まって一つの町に発展してきたのです。チツソ工場は町の発展にとってなくてはならないものであ

ったわけです。

ところが、25年前のある夏、この町にみたこともない病気がはやりはじめました。それははじめ海辺にすむ人びとの中に起こり、手足がふるえたり口がきけなくなったり、気がへんになったりしてついには死んでしまう人も出て來たのです。

いろいろしらべてみると、それは海からとれた魚をたくさん食べた人に多いことがわかりました。また、がんじゅさんが出る前に、餌い猫がつぎつぎとおどりくるって死んだり、からすが空から落ちて来たり、魚がたくさん死んで海にうきあがっていたりしたことがわかりました。

今ではこの病気はうつる病気ではなく、チッソ工場の廃水に含まれていた水銀が魚の口に入り、その魚を食べることによって人間に起きた水銀中毒であることがわかっています。でも、そういうことがはつきりみとめられるようになったのは、それから17年もたったあととのさいばんの判決の中であり、その間にも

たくさん的人が病気にかかったり死んでいかねばならなかつたのです。

チッソ工場が安全を考えずに毒入りの水を海にたれ流していたことは、会社の責任としてきびしく追及されています。チッソ工場がたれ流していた廃水中の水銀は今や不知火海全体をよごしていて、あちこちの町や村からかんじゅさんが発生しています。

この病気は、はじめにかんじゅさんが出した町の名をつけて「水俣病」(みなまたびょう)と呼ばれるようになりました。熊本県はしあき会というものをつくってこれらのかんじゅさんが水俣病かどうかはんだんして、水俣病とみとめられたばあいにはおみまい金を出すようにしています。このようにして今まで水俣病とみとめられた人は合計 2,000人くらいです。

### きょうりつ病院と いのしし先生

駅を出て、チッソ工場の正門前で右におれると、すぐそこに5階建ての「水俣きょうりつ病院」がたっています。ぼくはお医者さんで、奥さんはかんごふさん。ぼくらはこれからこの病院ではたらくのです。病院の人にあんないされながらぼくは両手にもった重いカバンを早くどこかにおろしたいきもちでいっぱいです。

「やあ ごくろうさま。」と手をさし出してきたお医者さんは藤野先生といってこの病院の院長さん。どんぐりまこと大きな鼻、大きな口そしてずんぐりした体の藤野先生は、いかにもごうけつといったかんじです。ぼくはすぐにこの先生のアダナを「いのしし先生」と呼ぼうときめてしまいました。





いのしし先生は、皆なの力で水俣病のかんじゅさんを救おうと、6年前に診療所をつくり、2年前にこの病院をたてたのです。そのころ、水俣病のために医者をやろう、それもチツソ工場の真ん前でやろう、というのはとても勇気のいることで、いろいろなおどかしやいやがらせがあったそうです。そういうぼうがいにもまけないできた勇気のあるお医者さんですから、やっぱりごうけつなのです。

### 外来のかんじゅさん

朝、外来にゆくと、しんさつ室の前にはもう2~3人のじいちゃんばあちゃんがすわって待っています。海の向こうから船にのってきたり、となり町から汽車にのってきた人たちです。かんじゅさんがはるばる遠くからもやってくるのは、この病院が水俣病をよくみてくれるというひょうばんがあるからです。

かんじゅさんはたいてい、手足の先のほうがしびれてジンジンすると言います。それか

ら「だらしかー」とよく言われます。「だらしか」と言うのはだるいという意味です。「からすまがり」というのはけいれんのことで手足の筋肉がつっぱってぼうのようになることです。そのほか、頭がいたい、めまいがする、ものわすれしやすいという人もいます。ちょっと元気そうに見える人も、しんさつしてみるとこのようにいろいろ苦しんでいることがあるのです。

いのしし先生は言います。「水銀中毒のひがいは、症状がそろってつよくあらわれたものから、症状の少ないよわいものまでさまざまなものがあるわけですから、その全体が水俣病と言うべきなのです。ちょうど富士山のように高く大きな山があるのにたとえられます。ところが現実は、雪をかぶったてっぺんのところしか問題にされず、その下にある広いすそ野の部分がわすれられています。」

### つきちじいちゃんのかいぼう

つきちのじいちゃんは、肺炎でながく入院しているかんじゅさんです。ねたきりで、もうことばも話さず、鼻からどろどろした食べものを入れてもらっています。ある日、呼吸がよくなってしまい、とうとうきかいの力で呼吸しなければならなくなりました。もう今日明日といいういのちです。夜おそく見まわると、じいちゃんのベットについていたばあちゃんがこう言いました。「かいぼうをおねがいします」

かいぼうというのは体を切りさいてないぞうをよくしらべることで、たいていのうちの人は死んだ人がかわいそうだというのでやりたがりません。それをこのばあちゃんが、それもじいちゃんが死ぬ前に言うのですから、ぼくはびっくりしてしまい、ばあちゃんを見

ました。ばあちゃんはそれ以上もう何も言わず、ベットのヘリにこしかけて、ただ窓の外を見ていきました。そのよこ顔がとても悲しそうに見えました。

次の日の夜、とうとうじいちゃんは死んでしまい、車で送られてゆきました。明日は熊本へつれていってかいぼうをうけるそうです。げんかんで見送ったぼくは、ばあちゃんになんどもなんどもおじぎされました。そしてばあちゃんの目になみだがぼろぼろこぼれるのを見ました。

ぼくはあのときばあちゃんがなぜ「かいぼうをおねがいします」と言ったのかわからなかつたのですが、あとで病院の人から聞いてわかりました。じいちゃんは自分は水俣病だと信じながら県のしんさ会に何回も何回もおねがいしてもみとめられなかつたのでくやしい思いをしていました。「自分はお金がほしいのではない。水俣病のかんじゅがきちんと水俣病とみとめられるようになりたい死んだあとにかいぼうしてしらべてくれ」そんなゆい言をのこしていたのです。

### 水俣川の水

ぼくたちが住んだ家は、町はずれの陣内（じんない）という所にあって、そこから毎朝、自転車で病院へかよいました。国道が水俣川をわたる橋にさしかかると、おまわりさんがいつも交通せいりをしています。白い息をはきながら橋の上をゆくと、水鳥が川の中に足をひたしているときもあり、列をつくってすいすいおよいでいるときもあります。

ぼくはこの川の水がふえたりへったりするその変化が大きいのをふしげに思つてながめていましたが、それはこういうことらしいのです。水俣川の水がそぞく河口の方で海の水がふえたりへったりするのにあわせて川の水もふえたりへったりするのだそうです。九州の有明海（ありあけかい）は遠浅で有名ですが、不知火海もそのつづきですから、水俣の海も満ち干きの差が大きいのです。海の水がひいたときの浜に出ると貝がたくさんころがつていて、それをひろってきて食べたというのはもう昔のはなしです。

### 舟にのったときのこと

むこうの島は天草（あまくさ）。いつか行ってみようという願いがかなつて、ぼくと奥さんは船にのるところです。船が出るところは百間港（ひゃっけんこう）。チッソ工場の廃水が流されてヘドロが一番たまっているところです。船にのるとぼくはすぐ窓を開けて海面を見つめますが、海のなかはぜんぜんすきとおって見えませんから魚がいるのかどうかもわかりません。

船はぐんぐん遠ざかって港がどんどん小さくなっています。水俣の町全体もまわりの山々にかこまれて小さく見えています。海から見れば、水俣は西九州にたくさんあるくぼんだ入江のなかのひとつにすぎないことがわかります。やがて、海の向こうに見えるのは、うねうねとした山がつらなってできた九州の大きな陸地だけになります。その中に一すじけむりがたなびいているのは、あれはチッソ



工場のエントツにちがいありません。そのけむりが無かったら、水俣は青一色にそまったく陸地のどこにあるのか、さがせそうもありません。

くもりがちのうすら寒い日ですが、風の寒さをがまんしてぼくと奥さんは船の上に出ています。ところどころ漁船が出て魚をとっているのとそれちがいます。波はとってもしづかで、ときどきうす日がパーッとさすたびに太陽の方向にさざ波がキラキラかがやいて船のあとを追いかけてきます。それがとってもきれいなのです。

その日は天草の本渡（ほんど）というところに行ってキリストの墓を見てきました。キリスト教の信者のこととで、むかしこの地方のとのさまのひどい政治に反対したキリスト教徒たちが、幕府（ばくふ）と大きくさをしてたくさんの人々がここでころされたのだそうです。

## 島の集会

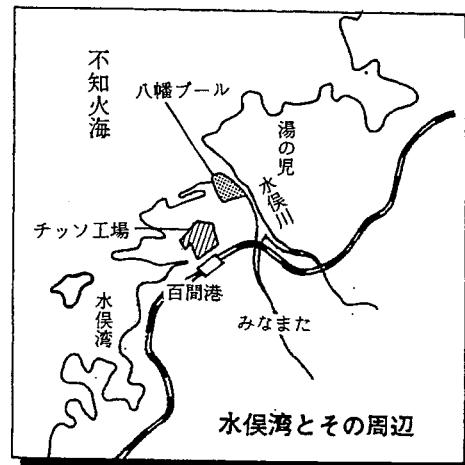
ある晩、ぼくたちはむかいの島にわたろうということで舟をまっていました。御所の浦（ごしょのうら）という島でさいばんのための地域集会があるのであります。一面きりがかかるて海のむこうはよく見えず、きりも海の色もなまり色です。ぼくらのたっているていぼうに波がじゃぶんじゃぶんとうちよせます。

風も寒いし舟はほんとうに来るのかなあと思っているころ、きりの中からけいきのいい音をたてて舟があらわれました。御所の浦にいっそうしか無い「海上タクシー」です。島に急病人が出たとかいそぎのときにこのタクシーをつかうのだそうです。海の上にもタクシーがあるのだなあと感心して、ぼくはゆれる舟にとびのりました。

舟はきりをかきわけ、いきおいよく走ってゆきます。ほかの人たちは寒いので舟の中に入っていますが、ぼくは舟のへさきの方にすわって前のほうを見ているのがおもしろくてしょうがないのです。ときどき、きりの中にあかりが見えたと思うと、それは魚をつっている舟です。そんなにさり火が遠くに見えたり近くに見えたりします。夜の海で一面にきりがかかっているので、まるで海の上ではなく広いなめらかなじゅうたんの上をすべっているかのようなんかんじです。

やがて島の北側、嵐口（あらくち）というところにつきました。島の人たちががんべきで時計を見ながらしんぱいして待っています。あんないさて漁師さんの家にゆくと、たまたまのへやにきゅうくつなくらいにごちそうがひろげられていました。集会の前にまずはらごしらえということです。お皿の上にさしみやにざかな、やきざかなが山もりになっています。魚はタチウオとクロダイというなまえです。山もりの魚はとてもたべきれるものではありません。

この家のご主人は、赤黒く日やけじてのんびりしたかおの、いかにも漁師さんらしい人です。その人がこう言います。「食べれ、食べれ。ごはんよりもいっぱい食べれ。」ぼくは





言われるとおりに魚をいっぱい食べて、あとでごはんをちょっと食べました。

あとでこういうことをきました。漁師さんにとって、魚は海の上でとれるからただで手に入り、しかもどっさりある。でもお米はお金を出さないと手に入らない。だから漁師さんは魚をどっさり食べてしまうのだと言うのです。水銀入りの魚をたくさん食べれば、それだけ早く水俣病になってしまいます。だからくらしがまずしいということも島の人たちに水俣病が多いことの大きな原因になっているらしいのです。

おなかをいっぱいにしたぼくらは、ろじうらみみたいな細い道をあっちへ曲がったりこっちへ曲がったりしながら歩いてゆきます。島にはこれ以上にふとい道が無いのです。家と家とがぴったりよりそうようにしてたっていますから、そういうろじうら道のところどころにやおやさんがあったり、とこやさんがありました。そういうきゅうくつさも島のくらしらしいところです。

会場は部落に一つしか無いお寺の本堂です。

もうたくさん的人がすわっていて、ざっと100人は、いるようです。

やがて事務局の人が話をはじめます。「県のしんさ会は、チッソのためばかりをかんがえて、水俣病のかんじやを水俣病とみとめなくなっています。この前みとめられた5人のうち4人までが死んでからかいぼうされてみとめられた人たちです。このように、生きているうちにはみとめられず、死んでからみとめられるというのがあたり前になっています。死んでからみとめられてお金をもらつてもなんにもなりません」集まった人々はシーンとして聞いています。「病気が出たときに不知火海の魚を食べないようにおふれを出すとか、チッソ工場の廃水のたれ流しをやめさせるとか、国や県が十分な手をうつていれば、その後のかんじやさんの発生はくいとめられたはずです。だから、そういう政治をなまけてきた国や県にも水俣病をおこしたせきにんがあります。そういうせいを正すいみでも国や県を相手にさいばんをおこすいがいに道はありません。そのためにたくさんの人にさいばんの原告団に加わってほしいのです」集まった人々は、そうだ、そうだ、とうなずいて聞いています。意見やしつもんはありませんかと言うと、たくさん的人が手をあげたり立ちあがったりして発言しました。

### わらび座のおどり

今日は、東北からはるばるやってきたわらび座という一座が、町で一番大きな会館でおどりをやるのであります。ぼくは、かんじやさんのぐあいが悪いのでおくれて行ったので、さいごのほうしか見られませんでした。1,000人くらい入る会場の前半分くらいしか席がうま

っていないので、ぼくは心配しながら見ています。と言うのは、病院の若い人たちがおどりをたくさんの人見てもらおうということで、毎日も前からいっしょにけんめい券うりをしていたからです。おどりの文句にこういうのがあります。「ここがおいらのふるさとならばすべておかりよか このままに」この文句をあいことばにしてがんばっていたのです。

3、4曲おどりがつづいて、さいごは岩手のおにけんぱいです。これは鬼の面をつけた人たちが刀をふりまわしておどる、とてもいましましいおどりです。さいごに、きばせんのように2人の人が1人をかかえて高くほりあげるところがあります。そのとき5メートルくらいとびあがります。はたらくことのきびしさ、生きてゆくことのきびしさをのりこえて、さいごにはきっと高くとびあがろうということを表現しているそうです。まるで水俣の人たちのことをあらわしているかのようです。

病院の若い人々は、集まりが少なかったのでざんねんそうな顔をしています。でも水俣のような小さな町で600人も集まつたのはたいへんなことです。水俣のようないなかでこういうすばらしいおどりが見られるというのもたいへんなことです。「ここがおいらのふるさとなれば……」をあいことばに、若い人々は明るいふるさと水俣をつくるためにこれからもがんばってゆくでしょう。

### かんじやさんの新しい家

午後のしんさつがない日は、車でかんじやさんの家をおうしんして回ります。水俣は高い山がすぐ海の近くまできている地形ですからかんじやさんの家は高いところにあって、

車を下りてからもカバンを下げてエッチャラオッチャラ歩いてのぼらなければなりません。それでも、のぼるたびに海が大きくきれいに見えてたり、道のそばにみかんのなっている木があったりすると、遠足気分でけっこうたのしいものです。



森山のばあちゃんは、海から少しはなれた山手に、じいちゃんと二人きりですんでいます。家はピカピカの新しい家ですが、ざしきに入ってゆくと暗いところに一つ、ばあちゃんのベッドがおいてあります。ねたきりのばあちゃんは、毎日てんじょうばかり見ていてたいくつだらうなと思います。じいちゃんは無口で、しんさつ中もとなりのへやでコタツに入っています。外見ばかりりっぱな家でもおとしより二人で、なにかはりの無い暮らしです。

この二人はしんさ会で水俣病とみとめられたかんじやさんです。水俣病とみとめられると1人あたり1,600万円のみまい金がもらえますが、かんじやさんは、たいてい古くなつた家を新築するにつかうそうです。だから、水俣病のがんじやさんはりっぱな家にすんでいるからといって、けっしてしあわせではないのです。

## じっ子ちゃんとひふえちゃん

いのしし先生の机のうしろのかべには、正月の晴着をきた女の子の写真がかざってあります。もう何年も前からかざってあるようでカラー写真の色がくすんでいます。着ものをきたうれしさでほほえんだ口もとから白い歯がこぼれています。ぼくは、この写真はきっといのしし先生の娘さんの写真だうと思っていたら、実はそうではなくてじっ子ちゃんという子の写真だそうです。じっ子ちゃんが20歳で成人式をむかえたときの写真だそうです。じっ子ちゃんは小さいころに発病した水俣病、小児性水俣病なのです。

とっぷりとした入江のおくの2階建てがじっ子ちゃんの家です。じっ子ちゃんのお父さんは舟つくりの大工でもうしごとはやめてしまい、浜べに2そうの舟がわすれられたようにくされかけています。2階から海につき出



るようにして新築した部屋がじっ子ちゃんのいるところです。じっ子ちゃんはトレパンにかっぽう着をきて、お母さんとミシンでぬいものをしています。じっ子ちゃんは写真で見たよりずっとこどもっぽいかんじがしますがとしはもう27歳くらいです。おすわりして左手の親指と人さし指のまたを右の人さし指でこする動作をくりかえしていく、なかなかこちらをふりむいてくれません。ニコリともしないで、ときどきこちらをふしげそうを見るだけ。手をにぎるとちょっと手に力が入りますがすぐはなてしまいます。心というものが無いロウ人形にさわっているような、なにかへんなかんじがてしまいます。

ひふえちゃんは25歳。手足がつっぱったまま体もかしのぼうのようにかたくなっています。口をひらいて目は上方にひっくりかえっています。しんさつをしようと思ってうでをひろげようとすると、いたがって「アーハー」と声を出します。声を出してもうめき声になるだけ。体もうごかせません。

ひふえちゃんのふとんのまわりには、近くのばあちゃんたちが集まって、せけん話をしています。ひふえちゃんのめんどうみているばあちゃんは、自分が死んだらだれがこの子のめんどうをみるのか心配だということです。

## まこちゃんとまつ子ちゃん

まこちゃんは病院の人気ものです。27歳くらいで体は大きいくせにこどもみたいなようちな話しかたをします。おなかがいたいと言ってやってきて、しんさつ台にねせたら、そのおなかの大きいこと、おなかのむこうにメガネをかけたひげづらの男のかおがあって、思わずふきだしてしまいそうになりました。

胃カメラをやるときもカメラがうまくのみ

こめなくて「もうあかん。いいわ」とことわられてしまいました。もう少しがんばってみればとなだめても、こどもみたいにきかないのです。

まこちゃんはやはりお母さんのおなかの中にいるとき、水銀のえいきょうをうけて体の中にいろんな異常ができる生まれたのだそうです。歩けるし、ふつうに話せると言ってもはたらくこともできずプラプラしています。

「かんじゅさんがじっとしてくれないのできてください」そう言われてぼくはけんさ室にかけつけました。これから頭のレントゲンをとるところなのにまつ子ちゃんが帰りましたがっていやきやしながら泣いています。まつ子ちゃんは24歳で体が大きいわりに、こちらのいうことがわかりません。ちんせい剤を2本打っても眠ってくれないので、かんごふさんもレントゲンぎしさんもこまったかおで見ています。いちばんたいへんなのは一つちがいのお姉さんで、まつ子ちゃんがにげ出さないようにうしろからしっかりおさえています。3本目のちゅうしゃ。ぼくは口の中で小さく「まつ子ねむれや、ねむれやねむれ」と子もりうたをうたっています。もう1時間もたっています。まつ子ちゃんはときどきかおをくちゃくちゃにして「エーン」と長くのばした声を出します。「エーン」となく以外にまつ子ちゃんのことばは無いのです。やっとねむそうなかおになってきたまつ子ちゃんをけんさ台の上にのせます。やれやれ、これでやつとけんさができそうです。

### 島からきたかんじゅさん

ある日、海のむこうの島からかんじゅさんがしんさつをうけにきました。このごろ歩くときころびやすくなつたので、「水俣病では



ないか?一度みてもらえ」とまわりの人たちからすすめられてきたそうです。実は近くにある市立病院のほうへ来たのですが、「そういう病気はうちではみません。あちらの病院にゆきなさい」と言われてしんさつもうけられずにこの病院に来たのです。

市立病院は大学のようにたくさんの科がそろった大きな病院で、市長もここで水俣病をみてゆくということを言っているのですが、じっさいにはこんなふうにしんさつをことわられるかんじゅさんもいるのです。ぼくははらがたちましたが、ともかくこのかんじゅさんをみてあげなければなりません。

しんさつしてみると、水俣病のつよい症状のいくつもがそろっていることがわかりました。たぶん、このかんじゅさんなら今のきびしいしんさつでも水俣病とみとめられそうです。今でもこんなふうにひょいとかんじゅさんがあらわれるのですから、まだかくれてい

るかんじゅさんはたくさんいるにちがいありません。

かんじゅさんにとって「自分は水俣病ではないか」と言いたいことは実はたいへん勇気のいることです。家族に水俣病の人がいるとなるとけっこんができないなったり、しんせきづきあいがとだえたりするさべつがあります。また、食べもののお店などをひらいてみると、お客さんがこなくなったりもします。水俣病のかんじゅさんを見る世の中の人びとの目は、かならずしもあたたかくはないです。

おまけに少し前から「ニセかんじゅがお金ほしさにしんせいしている」という悪口がひろめられてから、ますます自分がかんじゅだとは言い出しにくくなっています。だから町の中にもたくさんのかんじゅさんがいるはずなのに、じっとがまんしてだまっているばあいが多いのではないかと思います。

それにしても、水俣病のかんじゅさんをみてくれないというのは町の中のおいしゃさんのほとんどがそうらしいのです。いのしし先生に言わせると、水俣病のかんじゅさんはかくれた人もふくめて全体で2~3万人くらいいるそうですから、きょうりつ病院だけではありません。水俣病のかんじゅさんをしんせつにみてくれるお医者さんがもっとふえてくれればと思います。

### かしわぎくんのけっこんしき

12月のある日、病院の職員のかしわぎくんとおおもりさんのけっこんしきがありました。会場にゆくと、ふだんは白衣をきてはたらいている職員の人たちがみなきれいなきものをきてすましています。おおもりさんは美人のかんごふさんで、まっ白いウエディングドレ

スであらわれたのをみんながためいきをついて見とれています。かしわぎくんはなかなかの音楽家で、自分で作った歌をうたって見せました。

この海で育ち この海で生きた  
飲んだくれおやじは今は遠い人  
生きる糧を奪われた  
今の私にできることは  
あのきれいな海がもどるまで  
闘うことなのだ  
今の私達にできることは  
もう二度と涙を流さぬよう  
闘うことを忘れはしない

二人とも歌をうたうのが好きで、歌声うんどうをつうじて水俣の町を明るくしてゆきたいというきぼうをもっています。水俣病のかんじゅさんたちがだんだん年をとつて死んでいく中で、こういうきぼうをもった若い人たちが次々にそだってきているのはたのもしいことです。

マイクをもって、とくいののどをきかせていいたいこばらのおじさんは、水俣の魚屋さんの組合の組合長さんであるなかおさんです。なかおさんのおどりはとてもゆかいで、みんなが腹をかかえてわらっています。20年前のこと、水俣病の原因は不知火海でとれた水銀入りの魚らしい、ということがひろまるとき、なかおさんたち魚屋さんは魚が売れなくてこまつたそうです。そこで町中の魚屋さんが不知火海でとれた魚は買わないということをきめると、こんどは海で魚をとっていた漁師さんたちが困ったそうです。漁師さんたちはほしょをもとめて何百人もチッソ工場におしかけて門の前でさわぎ、かけつけたけいかん

隊としうとつしてたくさん的人がたいほされたそうです。ぼくたちが水俣にきてさいしょに見たチッソ工場の正門がそいつた大きなさわぎのあったところです。なかさんはそいつたさわぎに火をつけた人なのです。

たくさんの人がけっこんしきにあつまり、2人におめでとうを言いました。冬の水俣の町には、こういうけっこんしきで感じる人の心のあたたかさがとても大切なもののように思われます。

### 島からひきあげた人たちのけんしん

日よう日を利用して、病院の人たち5人が地域けんしんにでかけました。神経のはたらきをしらべるきかいをもって、1けん1けんたずねあるいてしらべるのです。鹿児島県の出水市（いづみし）はツルがたくさんとんでくるので有名です。海のむこうにかつら島という小さな島が見えるあたりに、その島にもとすんでいた人たちが、こちら岸にうつってきてすんでいます。

6年前にいのしし先生たちがその島にわたってしらべた結果、たくさんの人人に水俣病の症状があることがわかったそうです。ちょうどそのころ、島にはじめて水道がひけたということで島をあげてのおいわいがあったそうです。島の人たちもふべんな島をだんだんはなれるようになって、学校は小学校の分校があるだけ。それももうすぐ無くなってしまうそうです。

こちら岸にうつってきたころは、おとしよりは毎日きしゃべに出ては島のほうを見てなつかしがったと言います。島の中には、島をはなれてひっこしていった人たちの家がいくつ

もあき家になっているそうです。

わらび島というところにきました。ここはむかし一つの島だったのが、今は川1本へだてて地つづきになっています。島だったころのなごりで、家はぐるりと1列にならんでいます。ほそい道をのぼっていって、そのうちの1けんに入ります。おじいちゃんはガンガン頭がいたむので

フラフラしてしばらく横にならなければなりません。ゆがんだ顔が苦しめです。家にいたむすこさんも胎児性水俣病ではたやすくにプラ

プラしています。自分のあとつきになる人がそのようにまともでないことがおじいちゃんのなやみらしいのです。

ほそい道をどんどん行ってたどりついた家は、若いおかあさんが夕飯のしたくをしていました。昔、このおかあさんに足が6本指の赤ちゃんが生まれたそうです。いのしし先生は言います。「お母さんのおなかの中にいるころ、水銀のえいきょうをうけて奇形になります。また流産・死産となつたばあいも多いと思います。そのへんはよくしらべられていませんが、胎児性水俣病として生まれるよりは、生まれずに死んだばあいも多いはずです」おかあさんはそのことをあまり話したがりません。おそくなつたので、けんしんはこれでおわりにすることにしました。

### 雪とみかん

水俣に雪がふりました。空からさかんにふってきて、つもらずにとけてしまう雪です。

病院の人たちはみんなめずらしがってよろこんでいます。そしてもっともればいいなと思っています。水俣に雪がつもることは少なくて、雪ダルマや雪がっせんをやることはむりのようです。町の雪がすっかりとけてしまつたあとも、むこうの山の一角に雪がきえのこってキラキラとかがやいているのが見えます。ぼくは水俣の人たちのために、あの山の雪だけでもとけないでのこってくれればいいなと思っています。

テレビを見ると、東北は大雪で電車がとまつたり停電になつたりたいへんみたいです。そんなふうに雪がふることがここでは夢のようです。

かしわぎくんは新婚旅行で雪の大山（だいせん）に行ってスキーをしたそうです。かしわぎくんの奥さんが「私たちには、りんごが木になっているのがめずらしい」と言います。ぼくにとっては、みかんが木になっているのがめずらしいのです。北と南のちがいです。

### ヘドロの港

くもったある日、ぼくたちは病院の車にのせられて町をひとまわりします。

八幡プールというのは水俣川の河口にあってチッソ工場から出たヘドロを一時ためいたところ。今はうめたて地になって草がぼうぼうはえています。手前にある細長い丘は「



がめのくび」といい、このあたりが昔は砂浜がうつくしくて海水浴ができたそうです。

チッソ工場のうら山にあたる「会社山」をとおって百間港（ひゃっけんこう）に行きます。百間港の片すみに、チッソ工場からの排水口が口を開けています。このあたりは舟をつないでも、ふしぎと舟のそこに貝やそのほかの虫がこびりつかなかつたと言います。今もないである舟と舟の間から海をのぞいて見ますと、海の水は灰色ににごっているだけです。海にながす前のため池には今はヘドロのかたまりがひからびてのこっています。風のつよい寒い日なので、港は三角波がたってじっぷんじゃぶんと舟底をうっています。もう日がくれそうです。

### 明水園のかんじやさんたち

山のむこうのみかん畑の中にある明水園というしせつにゆきます。ここは水俣病で認定された体の不自由なかんじやさんたちが入院しているところです。

事務長さんのうしろについてゆくと、ろう下をはいはいして歩いてくる子がいます。頭をおかっぱにした目のきれいな女の子です。自動ドアの前までゆくとドアがさっとひらき、そこを出たり入ったりしています。

小児性のかんじやさんばかりいるへやがあります。ベッドが三つならべてある中に女の子ばかり、みなひふえちゃんのようなこわばつた体をしてねています。

まんなかのちづるちゃんは25歳。病院のはまつきかんごふさんと知り合いで、はまつきさんの話をするとうれしそうなかおをします。家の人ももてあましているので、家に帰れるのは年一ペんぐらいのことです。事務長さんはげんこつにした手をほほにグリグリやっ

て話しかけると、やっと話がわかるようにうれしそうなかおをしています。

ベッドの下で男の子がタオルのはしをもつてそれを肩にひっかけるような動作をさっそくからくりかえしています。いがぐり頭の男の子はもう20歳をすぎているはずですが、かおはこどもみたいでゴリラみたいなかおをしているので思わずわらい出してしまいそうになります。この子はおしりをずっと歩くばかりで立てないので、大きなオムツをしています。

それから一週間後、新聞をみていたら「水俣病のかんじや死ぬ」という記事が目にとまりました。なんとあのちづるちゃんが肺炎になってしまった死んでしまったそうです。ここでは水俣病のかんじやさんが死ぬとかならず新聞にのります。はまつきさんにおしえたらなくなるときにかけつけていたそうです。やすらかな死にがおだったそうです。生まれて25年、自分がなぜこのようになったかもわからないで、ふつうの女の子のようにうたつたりおどつたりできないで、死んでいかなければならなかつちづるちゃんがぼくはとてもかわいそうでなりません。

別のところには魚のいれい祭という記事もあります。百間港では海の底にたまたまヘドロが外の海にながれださないようにへいを作

って、その中でヘドロのほりおこしがすすめられています。この中にすむ魚は食べてはいけないもので、漁師さんたちがここで魚をと



ってはタンクにつめておいてまとめてやしてしまうのです。ただもやしてしまうだけのために魚をとらなければならないことは、漁師さんたちにとってはとても悲しいことです。ちづるちゃんの一生も、この魚ににたところがあります。

### 水俣をあとにする

元旦のはれた日、ぼくらは六つの大きな力パンといっしょにタクシーにのりこみます。水俣ではたらいた2ヶ月間もこれでおわりでヒコーキで帰るためにこれから鹿児島にゆくのです。山の方にむかって水俣川をさかのぼるようにして走ると、両側に山がせまるようになつたせまいところに点々と家があります。あちらこちらで大根を干しているのが冬のけしきらしくて目につきます。雪もここではきえのこついて峰をこえるのがたいへんです。やっと県ざかにさしかかると、ここまでが水俣だったのかはじめて気がつきます。そういう山々の間のくらしをふくめて広い地域が水俣市なのであり、ぼくたちがくらしていたところは海ベりのほんのせまいところにすぎなかったのです。

空港からとびたったヒコーキは、けむりをもくもくとはいっている桜島のはるかに高いところをとんでゆきます。九州ともこれでおわかれです。ぼくはヒコーキの窓にかおをおしつけながら、水俣で知りあった一人ひとりのなつかしいかおを思いつかべています。水俣の人たちは水俣をほんとうにふるさとといえるような美しい町にとりもどしてゆくための長いたたかいをつづけています。ぼくはこれからもそういう人たちの生きかたとどこかでつながりあえるような生き方をしなければいけないと思うのです。

## あとがき

水俣から帰って来たら、ぼくの住んでいる多賀城のある小学校のクラスの子たちがぼくに会いたいということです。先日、担任の先生が来られてそのことを相談したら、できれば教壇に立って直接こどもたちに話してほしいけれど学校の反対にあって困っているとのことです。それでは子どもたちのためにわかりやすいルポルタージュというものを書いてさしあげましょう、ということで書いたのがこの文章です。

はじめからこういう文章を書くつもりはなかったので、登場人物の名前、年齢などでうろおぼえのものは苦干私の創作にたよっています。

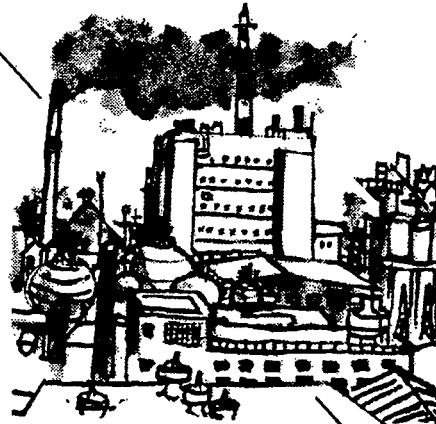
こどもに読ませるには長すぎたかも知れませんが、なるべく私の体をつうじて感じた水俣の自然と人を表現しよう、私が教壇に立つたらこういう話し方をするだろう、という中味をまとめたら 400字詰原稿で40枚もの長さになってしまいました。

さて、このルポルタージュの中にどういう内容をもりこむか、ということが苦心したところです。

小学5年くらいの子どもはまだ社会のしくみはわからないが、するどい感受性があるだろう。だから何よりも水俣病の被害に苦しむ人々がかわいそうだというきもちをもってくればよい、そしてできれば、かわいそうだという中味がどのようなものかを深く理解してもらえばよい、とぼくは考えました。

最低限望むことはそれだけですが、できれば次のようなことを理解してもらえばなおよい。

第1に、公害の被害は大きな山のようなもので、典型例・重症例もあればそれに至る一步手前の不全例も幅広く存在しうるということです。ここから単純に患者と正常人とを切



りはなして考える考え方が批判されます。

第2に、公害の被害は人間の健康におよぶ前にその前兆として生態系・環境への被害が先行してあらわれている。だから身の回りの環境とそこに生きるものよく見つめ、それらを大切に守ってゆくことが強調されます。

第3には、公害被害者の苦しみは、単に身体的なものだけでなく、人間的、社会的なものを含めた全体としてとらえられなければならないことです。

ここではとくに生活の「かて」を奪われ、ふるさとを奪われる人たちの姿が描かれています。そこには「地域再生」ということばに示されるような困難な課題がたちはだかっています。公害によって失なわれるものの大きさを知って、公害を未然に防ぐという人間の知恵を發揮できるようなかしこい人間、民主主義的な人間をこれから教育が創造していくほししいと思います。

天谷 静雄

(宮城民医連・坂総合病院産業医学科)

●この「はじめ」を読み跡者の  
の娘さんの子どもさんに贈んで  
あげたり、自分で机によづ  
にしておけで下さる、そして  
子どもたちの夢想を本気満開  
にせりお寄せ下さい。夢想  
実現の場合は“記念プレセ  
ント”をお送りします。

(15)

編集部

## すべての水俣病被害者の救済を目指すたたかい

水俣健康友の会・水俣病不知火患者会会長・

ノーモア・ミナマタ国賠訴訟原告団長 大石 利生

### 水俣病の本当の姿を知ってください

私の水俣病患者との出会いは、50年近くも前になります。私が水俣市立病院に入院をしたとき、小学3年生位の患者さんと出会い、水俣病専用の病室に出入りをすることが出来、他の患者さんたちとも交流が始まりました。

当時「奇病」と言っていた人たちが何人も入院していました。

手足は硬直して折れ曲がり、言葉にならない奇声を上げ、暴れ狂う人たちでした。

わたしはそのことで、劇症型と呼ばれるそういった症状が水俣病だと長い間信じていました。

ところが長い間の、民医連を中心とした地道な研究によって、劇症型を頂点にしながらも、その底辺には感覚障害を主な症状とする膨大な数の水俣病患者が存在することが分かってきたのです。

慢性の水俣病患者です。

底辺の症状といわれる感覚障害、それは見た目にはどこが病人かわからないほどです。

しかし日常生活には大変な支障をきたすのです。

私のように、一見しては普通の人と変わらないように見えても、立派な水俣病の被害者です。

私は、体に傷がついても血が流れるのを見るまでは、怪我をしたことがわかりません。

痛みを感じないです。かつて交通事故で15センチ程のガラスの破片が、足の裏から表まで突き抜けたことがありました。

そのときも歩くときに何か変だなと感じただけでした。

温度計で測った50度のお湯を膝からシャワーでかけても熱いと感じません。しかし足首を見ると真っ赤になっていました。

それで困ったことがあります。産まれて間もない孫が遊びに来て、お風呂が好きだと聞いて「よし、お風呂に入れてやるぞ」と私が先に湯船に入り、孫を入れてやった瞬間、大声で泣き始めました。妻が飛んできて湯船に手を入れ、

「あんたはこの子を茹で殺す気か」といわれました。ですから私は孫と一緒にお風呂に入ることはできません。

毎日の食事も、味や香りがわかりません。ただ生きていくために食べ続けるだけです。

これこそが水俣病の症状だということは、水俣協立病院で診察を受けるまで分かりませんでした。

劇症型が水俣病だと信じていたからです。こんな人は大勢います。

## 水俣協立病院との出会いは人生の転機になりました

私ははじめ「あなたは水俣病ですよ」と診断されても、にわかには信じられませんでした。しかしその後、医師の説明を聞き、自分なりに勉強を重ね、自らの症状を考えたとき「水俣病」という現実を受け入れざるを得ませんでした。

私の症状は、2004年最高裁で判決が出された「水俣病」の症状に思い当たる部分があまりにも多くありました。私は、水俣協立病院と最高裁から「水俣病」という診断を受けたようなものです。そのことは私が裁判による救済を求める動機にもなりました。

田舎で、会社員や魚獲りで暮らしてきた平凡な男が、2000人近い原告を率いてノーモア・ミナマタ国賠裁判の原告団長として戦いの先頭に立つようになるなどほんの少し前までは考えもしませんでした。

## ノーモア・ミナマタの実現を目指して闘っています

2005年10月、これを水俣病における最後の裁判にしたい、日本でも世界でも決して水俣病の再来を許さない覚悟で、加害企業・チッソや国を相手に裁判を提起しました。

ノーモア・ミナマタ国賠訴訟とはその決意を表したものです。  
その闘いは大阪地裁へも広がっています。

政府・与党は、窒素を分社化して加害企業を消滅させること、公害指定地域を解除してこれ以上患者を認めないことを条件に一定の金額を支給するなどとした「救済案」を押し付けようとしています。

しかし、これではノーモア・ミナマタの思いは達成できません。

私たちは、あくまで裁判所の関与による司法救済制度の実現を目指します。

私たちが闘っているこのノーモア・ミナマタ国賠訴訟は、公害の原点と言われる水俣病の全面解決を図るためにも、全ての公害被害者の救済のためにも、なんとしても勝利しなければならない裁判です。

裁判はこれまで19回の口頭弁論が開かれ、原告側の証人「熊本民医連／神経内科リハビリテーション協立クリニックの高岡滋医師」への尋問が終わりました。

年度内結審を終え、来年夏頃には「勝利判決」を勝ち取るべくすすめています。

また被害者の全面救済のために必要な「不知火海沿岸住民の健康調査」を、実施する予定です。

私たちは、あくまでも裁判所の関与による司法救済制度の実現を目指します。

今後とも全国の民医連事業所の皆さん、共同組織の皆さん、「水俣病被害者の早期・全面解決」のためにご支援いただきますよう心からお願ひ申し上げ、報告いたします。

## 加害企業を免罪する「チッソ(株)分社化」に再び反対する緊急声明

今国会に水俣病に関する特別措置法案が、与党および民主党からそれぞれ提出され審議されてきました。

私たちは、本年3月、与党案に盛り込まれた公害指定地域解除と加害企業チッソの分社化に反対する声明を共同で発し、熊本県知事、環境大臣、チッソ(株)に対し直接要請をしてきました。長年、水俣病に苦しんできた被害者として、水俣病問題の解決に逆行し、水俣病の加害者であるチッソ(株)、国、熊本県の責任を免罪することを目的とする法案について、座して看過することはできないとの思いからでした。

ところが、この間の報道によれば、与党と民主党との協議が、実務者から国対委員長および政調会長レベルに「格上」されたことにより、与党案をベースにした修正で基本的に合意したとされています。公害指定地域解除が削除されたり、救済の範囲を広げる方向での協議が続いていると報道されていますが、チッソ(株)分社化は維持されており、法案の本質は、この3月と何ら変わりはありません。

私たちは、加害企業チッソ(株)が歓迎し、被害者はさらなる苦渋を迫られる、チッソ(株)分社化を絶対に許さないことを再度、表明するものです。

少なくとも格上げされた与党と民主党の協議メンバーは、いちばんの当事者である水俣病患者の意見、実情を直接聞くべきです。患者の意見を聞くことなく、「国会対策上」の妥協をするならば、水俣病の苦難の歴史にかつてない最大の汚点を残すことになります。また、国会は法案審議にあたり被害者団体に賛否両論ある中、患者団体代表の意見を聞く正式な場を設けるべきです。

解散、総選挙を控えた、国会会期末のあわただしい中で、当事者の意見すら聽かず、拙速な判断をすべきではありません。あらためて、最大限の議論をつくすよう、与党および全野党に要求するとともに、国民のみなさんのご理解を心からお願いするものです。

2009年7月2日

水俣病互助会 会長 謙山 茂、チッソ水俣病患者連盟 委員長 松崎忠男

水俣病被害者の会 会長 森 葦雄、水俣病不知火患者会 会長 大石利生

水俣病被害者互助会 会長 佐藤英樹、水俣病患者連合 会長 佐々木清登

水俣病被害者の会全国連絡会 幹事長 橋口三郎、水俣病患者の会 会長 濱元二徳

新潟水俣病被害者の会 副会長 小武節子、新潟水俣病阿賀野患者会 会長 山崎昭正

水俣病・東海の会 会長 國崎イネ



【復刻版】「子どもに語る水俣のはなし」

2009年7月発行

発行者 全日本民主医療機関連合会

〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4

平和と労働センター7F

TEL. 03-5842-6451

FAX 03-5842-6460

E-mail min-iren@min-iren.gr.jp